

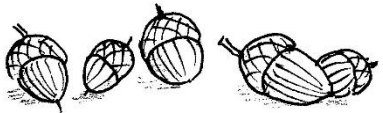
# 落ち葉物語

大島京子 作・絵  
©2023 ロー・スワ・ワカ・ブックス



皆さんも、落ち葉をゴミだと思って  
捨ててしまわず、そこに書かれている  
小さな小さな命の事も忘れずにして  
くださいな。

小さな森の奥深く 小さな子リスの  
兄弟が住んでいました。  
二匹は落ち葉で遊ぶのが大好き  
飛んだり 跳ねたり 走ったり  
秋の森で遊び回っています。  
ある日のこと いつもの様に森の中  
を遊び回ってお腹がすいた二匹は  
ドングリをお腹いっぱい食べて  
ひと休み  
木もれ日の差す暖かな落ち葉の上で  
寝転んでいるうちに 眠ってしまいま  
した。



するとどうでしょう。  
二匹の体がドンドン ドンドン小さくなっ  
て 落ち葉の奥に落ちて行きました。  
真つ暗な中で 誰かの声が聞こえま  
す。「モソモソ ウマウマ」  
あっちからも、こっちからも  
「モソモソウマウマ モソモソウマウ  
マ」  
二匹は少し怖くなって そつと目を開け  
ると小さな虫たちが落ち葉を美味しそ  
うに食べていました。



さて、いかがでしたか？  
落ち葉は小さな虫たちや ミミズたち  
のごちそうになって、さらに微生物と  
言う目に見えない生き物達に細かく分  
解され、長い時間をかけて 木や草花  
の栄養になって行きます。また 微生物  
達は植物の根から栄養をもらい、助け  
合っているんです。  
他にも、硬い土や粘土の様な土を  
カチカチに受えてくれるので 植物達の  
根の成長を助けています。  
動物、植物、落ち葉、虫、微生物、わたし  
たち人間も大切な地球の仲間です。

「君たちはいったい誰？」  
二匹は勇気を出して声をかけてみま  
した。すると大きなミミズが現れて言  
いました。  
「わたしたちは お食事中なの 落ち  
葉は私たちのごちそうなのよ じゃま  
をしないでね」と言いました。  
その声を聞いたとたん 二匹の体は  
もつともつと小さくなって どんどん深  
く沈んで行きました。



「分解って？」と聞くと  
「もつともつと小さくして 木や草花の  
栄養を作っているんだよ そのかわり  
木や草花の根っこから おいしいごち  
そうを ごほうびにももらえるのさ」  
と自慢げに言いました。  
二匹は顔を見合わせて「へ～そう  
なんだ！僕たちもおいしいごちそう  
食べたいなあ～あ」  
へロリと舌なめずりをしたとたん 二  
匹はもつと落ち葉の上で目がさめた  
とさ。  
お・し・まい。

そこには見たことも無い 小さな  
生き物たちが「ワンサカ ワンサカ」  
ものすごい勢いで増えています。

二匹はまた勇気を出して  
「君たちは誰？」と聞くと  
「われわれは土の中に住む 微生物  
さ 落ち葉を粉々にしたり 虫たちの  
ウンチを分解したりしているんだ」

